

## 子路第十三

子曰、剛毅木訥、近仁。

しい 子曰わく、こうきぼくとつ じん ちか 剛毅木訥は仁に近し。

(13-330)

< 子曰わく、剛毅木訥は仁に近し >

Q : 「子曰わく、剛毅木訥は仁に近し」とは何ですか。

A : (1) 「孔子が言った。剛(私心がなく、無欲なこと)、毅(意志が強く、思いきりのよいこと)、木(= 樸、ありのまま)で飾り気のないこと)、訥(口べたであること)なる人物は、学徳ともにすぐれた仁者に、ほど近い」の意。

(2) 「剛毅木訥の者は、それが直ちに仁とは言えなくても極めて仁に近いものである」の意。

(3) 「剛」は意志が強い、物欲に屈従しない。欲があっては剛とはいえない(103章)

「毅」は気性が強くて、果断。

「木」は朴と同じで、山出しの木のまゝ。質朴で飾りのないこと。人間のきじのまゝ。

「訥」は言葉のへたなこと。口数の少ないこと。

(4) 由来は「剛毅木訥」は蓋し、古の成言といっている。そのころの熟語だったかも。

\* 「蓋し」とは、次に述べる判断は、十中八九まちがいがいがないだろうという主体の見込みを表す。思うに、確かに。

(5) 「巧言令色、鮮きかな仁」(3章)や「仁者は其の言ふや訥(じん)す」(282章)と照応して読むと、了解するところの深いものがある。